

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業
第2回 <授業研究会>

【発行】令和2年7月
 高知市教育委員会
 学校教育課 学力向上推進室

学びに熱中する子供の姿がここにある！
 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業の指定校である潮江東小学校において、3年目の取組が進んでいます。6月には、本年度2回目の授業研究会を全校研として行いました。本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、校外から参加して頂いて学び合う研究会を開くことができない状況ですが、紙面での実践報告を随時発信していきますので、参考にしてください。

チェック！
詳しい情報はここで！
 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトの研究会の情報やレポートなどは、HPに掲載！

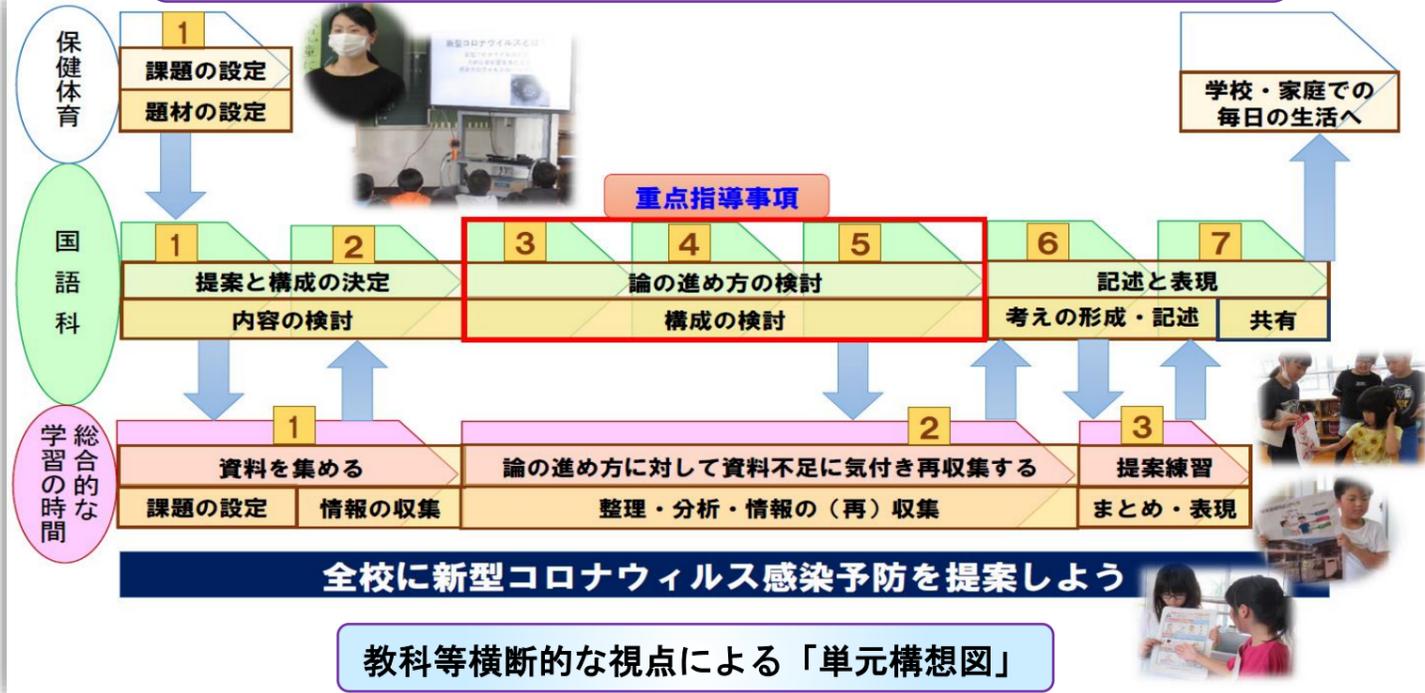


「深い学び」の鍵
一言による「見方・考え方」の成長が資質・能力を育てる

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編P.11-12】
 1 教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。
 …中略…
 言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、**対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に留意して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること**であると考えられる。

本単元は、保健体育の学習時に、養護教諭から、「上級生として、学習を基に、全校へのコロナウイルス感染予防の呼びかけをして欲しい。」という依頼を受けることから始まる。全校児童に呼びかけをして、感染予防の行動を起こしてもらうには、説得力のある提案をする必要がある。提案に説得力をもたせるには、「資料の活用」と「つながりのある論の進め方」が必要不可欠である。そこで、総合的な学習の時間と教科等横断的な視点で単元を組み立て、全校への提案を行うこととした。その単元の中で、国語科では、「聞き手が納得するように資料を説明できる力」と「論の進め方をつかんで構成メモを作成できる力」を育成することをねらいとした。

第5学年 単元名：全校に新型コロナウイルス感染予防を提案しよう
 教材名：「事実と考えを区別しよう」「環境問題について報告しよう」（東京書籍5年）
 授業者：横田 征爾 教諭（高知市立潮江東小学校）



【1・2時間目】
 ◎コロナウイルス感染予防の資料はたくさん集めることができたけれど……。
 ■集めた資料をどのように説明すれば、提案として説得力があるかな？

【3・4・5時間目】
 ◎読み手を説得するための提案の資料の説明の仕方や、全体の構成は考えることができたけれど……。
 ■説得力を増すために一番大事な本論①「原因」と、本論②「対策」にぴったりの資料選びと書き方のポイントは何だろう？

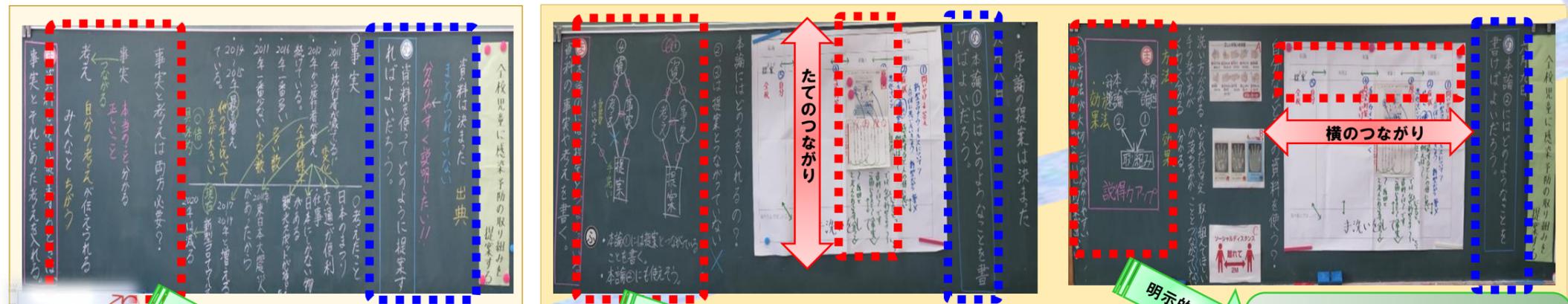
【6・7時間目】
 ◎説得力のある資料選びと書き方のポイントを使って構成したけれど……。
 ■この資料選びと論の進め方で、縦割り班の人を説得できそうかな？

単元で育てたい資質・能力

【学びに向かう力、人間性等】
 ○説得力のある提案をするために、効果的な資料を選んだり、構成を工夫したりして、より分かりやすく伝えようとする力

【知識及び技能】
 (2) 情報の整理
 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる力

【思考力、判断力、表現力等】
 B 書くことイ 構成の検討
 ○感染予防の提案をするために、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や論の進め方を考えることができる力



明示的指導
 能力ベースの授業づくり P.22 参照
 選んだ「資料」の説明の仕方に着目して、「事実」とそれに対する「考え」の両方を書くと説得力を増すことに気付いて、自分の説明で使う

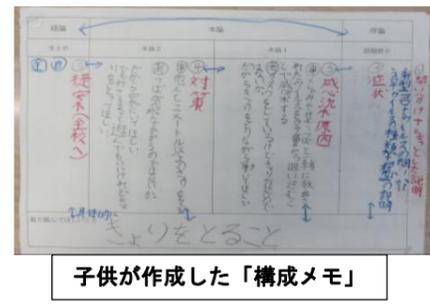
明示的指導
 構成メモの「たてのつながり」である、「提案」と「原因」と「原因を表す資料」が関連付いていることが説得力を増すことに気付いて、自分の提案で使う

明示的指導
 構成メモの「横のつながり」である、本論①「原因」と本論②「対策」と「対策を表す資料」が関連付いていることが説得力を増すことに気付いて、自分の提案で使う

単元の中で、「見方・考え方」が鍛えられて成長していく姿

授業者の感想【潮江東小学校 5年2組担任 横田征爾教諭】

学級の子供たちの文章を書く力を見た時に、説明不足で伝えたいことが十分に伝わらなかつたり、自分の意図をもって文章を組み立てたりする力の弱さが見られました。そこで、学年の一番初めの「書く」領域の学習で、「説得力のある文章を書くために構成する力」を付けたいと考え指導事項を設定しました。そうすることで、これから年間ずっと使える力となると考えたからです。また、子供たちが学びに熱中する単元をつくるために、コロナウイルス対応という状況下、上級生になり学校の役に立ちたいという思い、国語科として付けたい力、それら全てを関連付けながら教科等横断的な視点で単元を組みました。毎時間、「鍛えるべき見方・考え方は何だろう？」と悩みながら板書を考え、図式化する等、視覚的に分かりやすくすることで明示的指導ができるようにしました。



全校から出た意見

- 報告・提案するための文章の書き方を、モデル文を見て書き換えるという学習ではなく、論の進め方のつながりに着目させて言葉や段落の関係性に気付かせる「見方・考え方」を鍛える単元構成になっていたことが、自分がこれまで行ってきた授業と違って参考になりました。
- 板書で、論の進め方の仕組みを図式化して示すという発想がこれまでなかったので、真似したいと思いました。
- 教科等横断的な視点のみならず、国語科の2つの教材を1つの単元の中に組み入れて単元を構成していることも参考になり、自分も取り入れたいと思いました。また、単元の中での時間の行き来が、子供たちの間や必要感でつながっているところも参考にしたいと思いました。
- より「学びに熱中する子どもを育成する」ために、子供たちの困り感や問いをもっと明確に引き出すこと、座学を短くして一人一人の思考時間をもっと長く取ること、毎時間もっと相手意識をもたせたりリアルな言語活動を通すこと、構成メモの Before と After を比較して成長をメタ認知させること、提案そのものにもっと多様性をもたせることなど、さらに改善できることがあると思います。

